

【応募用紙】

1 応募者概要

団体名	(ふりがな:よこはましりつかなざわしょうがっこう) 横浜市立 金沢 小学校		
代表者の 役職・氏名	(ふりがな: なかやま みつえ) (役職) (氏名) 校長 中山 光恵	会員数	(令和元年 11月現在) 児童数 415名
ホームページ アドレス	https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kanazawa/	活動開始年月	昭和・平成 12年 4月
活動範囲 (複数選択可)	<input checked="" type="radio"/> 1 学校内 <input checked="" type="radio"/> 2 学校外 (海の公園)		
活動分野 (複数選択可)	<input checked="" type="radio"/> 1 川・海・水 2 緑・樹林 3 農業 4 3R <input checked="" type="radio"/> 5 環境教育・学習 <input checked="" type="radio"/> 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 8 その他()		
活動の目的や ねらい	<p>海の公園を学区とし自然に恵まれていることから、環境保全や環境改善のために取り組んでいる人々は組織を作ったり地域との連携を図ったりするなど、願いをもって組織的に取り組んでいることを理解することを目的に、特色ある海の環境学習に取り組んできた。</p> <p>5月にマリンフェスタとして海の公園の清掃活動や砂遊び、潮干狩りをするなど1年生から6年生まで海をテーマにした体験活動を行っている。野島海岸での生物調査、また4年生のアマモについての学習では、アマモの種から苗を育て、海へもどす活動を継続的に行っている。今年度は、こうした活動について積極的に発信し、広めたいと考えている。</p>		
過去に受けた表彰 および受賞年度	(例)横浜□□賞(平成○年度)		

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数等	詳細内容
平成 29 年度	・生活科・総合的な学習の 時間で海の環境学習 (1～6年)	全校児童	・4年生は土曜参観にて地域の方や保護者にアマモの生態や増やす活動について調べたことを発表。
	・マリンフェスタ (1～6年)	全校児童	・海の公園にて清掃活動、潮干狩り、砂遊びなど
	・国土交通省関東地方整備局 アマモメッセンジャー (4～6年)	12名	・「東京湾を海の生き物でいっぱいになりたい」との願いを込め、「金沢八景—東京湾アマモ場再生会議」と共に国土交通省関東地方整備局を訪問し、採集したアマモの種を届け、調べたことを発表
平成 30 年度	・生活科・総合的な学習の 時間で海の環境学習 (1～6年)	全校児童	・4年生は土曜参観にて地域の方や保護者にアマモの生態や増やす活動について調べたことを発表。
	・マリンフェスタ (1～6年)	全校児童	・海の公園にて清掃活動、潮干狩り、砂遊びなど
	・国土交通省関東地方整備局 アマモメッセンジャー (4～6年)	12名	・「東京湾を海の生き物でいっぱいになりたい」との願いを込め、「金沢八景—東京湾アマモ場再生会議」と共に国土交通省関東地方整備局を訪問し、採集したアマモの種を届け、調べたことを発表

令和元年度	・生活科・総合的な学習の時間で海の環境学習 (1～6年)	全校児童	・4年生は土曜参観にて地域の方や保護者にアマモの生態や増やす活動について調べた事を発表。
	・マリンフェスタ (1～6年)	全校児童	・海の公園にて清掃活動・砂遊びなど ・4年1組が「育てよう！海のゆりかご」をテーマに取り組んできたことをステージ発表。
	・国土交通省関東地方整備局 アマモメッセンジャー (4～6年)	12名	・「東京湾を海の生き物でいっぱいになりたい」との願いを込め、「金沢八景―東京湾アマモ場再生会議」と共に国土交通省関東地方整備局を訪問し、採集したアマモの種を届け、調べたことを発表する予定。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	・1日土曜参観 3・4年 ・朝会の発表	・海の生き物調査について分かったことを報告。 ・アマモについて調べた事を保護者に発表し、アマモについて知ってもらおう。合わせて全校に伝えるための発表の仕方についてアドバイスをもらった。 ・全校にもアマモについて知ってもらうため12月25日朝会にて発表予定。
自治会・町内会との関わり	・金沢の子の育ちを考える懇話会	・地域の方にもアマモについて知ってもらうため、4年1組の取組を発表予定(2月18日)
学外団体との関わり	・金沢八景-東京湾アマモ場再生会議のスタッフによる出前授業(4年) ・WWF ジャパンが実施する環境教育出前講座「プラスチックごみを減らすには」	・学区である海の公園や野島にあるアマモの概要や、育て方などについて学習した。 ・アマモの種を再生会議のスタッフから頂き、校内で栽培している。 (人工海水で3週間に1度ぐらい水替えをし、5cmぐらいの苗に育つように観察しながら栽培) ・令和元年度に受講。4年生が日常生活でどのぐらいプラスチックを使っているかを調べ、今世界ではどのような取り組みが行われているかを学習。改めて自然を守る難しさを感じるとともに、そのアマモなど自然の力を使って海の環境をよくする大切さを実感した。
企業等との関わり	・八景島シーパラダイス 飼育技士による出前授業	・本校視聴覚室にて11月アマモやワカメについての学習会 (アマモの役割やなぜ減っているかについての授業) ・12月ワカメの植え付け 3月ワカメの収穫 (八景島シーパラダイス・うみファームにて、ワカメの成長や海での役割について学習。縄にワカメの苗を結びつけ、栽培)

行政との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs未来都市 ・環境絵日記展 2019 【こどもエコフォーラム】 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市教育委員会 小中学校企画課 「環境教育実践推進校」として参加。4年1組が「育てよう！海のゆりかご」をテーマに取り組んできたことを発表。
その他、 環境以外 の分野と の関わり		

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

金沢小学校の学区には、海の公園や野島公園、八景島シーパラダイス、金沢漁港などがあり、海に恵まれている。クラブ活動では、「つりクラブ」、委員会活動では、「海の森委員会」というものもあり、海が近い学校ならではの活動を楽しんでいる。

歩いて海に行けるよさを生かして、1年生から6年生までの児童が海をテーマにした学習に取り組んでいる。特に4年生は毎年アマモについて学習し、教室前に金小アマモ場を設置し、種から苗を育て、平成19年から種の提供をして下さっている「金沢八景—東京湾アマモ場再生会議」と共に関東地方整備局を年末に訪れている。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

毎年本校で行っているアマモについての活動を改めて見直し、今年度はより児童主体で学習できるよう単元を構成した。活動を通して、地域の一員として海が豊かになるために自分にできることを考えるようにした。身近にある海だが魚が減っていること、またそれについて身近な自然環境や環境問題、環境保全に取り組んでいる人々の思いや願いを知り、「アマモを自分たちの力でも育てて海に返したい！」という思いをもって、アマモの苗床づくりや種まきなど活動することができた。また発表に向けて学習を重ねるごとに子ども達が前向きに取り組むことができた。本校では放課後、つりをして遊んだり、家族が漁業や釣り船など海に関する仕事をしていたり海を身近に感じている児童が多い。海での体験活動が多いよさもあり、アマモの魅力を理解し、その魅力を伝えたいという思いをもつことができた。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

- ・海の公園に行き、アマモ場を観察した。アマモ場で生き物採取をしてみると、コシマガリモエビやアカニシ貝の卵など小さな生き物やアサリなどがたくさんいることを知った。1時間ぐらいの活動でも10種類以上の生き物を見つけことができ、アマモが「海のゆりかご」と、いわれる理由を実感することができた。またそれらは互いに影響し合って生息していることを出前授業等で学習した。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

これまでのように、金沢八景・東京湾アマモ場再生会議のスタッフをはじめ、他機関とも連携をしながら、総合的な学習の時間や委員会活動を通してアマモについて触れる活動を継続していきたい。継続のために、全校児童に取り組み発表を行い、関心をもってもらえるようにする。また、年間で学習したことをパネルなどで残し、その年ごとにアマモや海の環境についての経験を蓄積できるようにしていきたい。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

総合的な学習の時間を通して取り組むことで、児童主体で学習活動を進めることができた。

学区に海の公園や漁港などがあるよさを活かした体験活動をしながら学習を進めている。金沢八景アマモ再生会議の方々と引き続き連携することで、環境保全に取り組んでいる人々の願いや思いを知り、地域の一員として海が豊かになるために自分にできることを考えて活動した。また今年度、発表・発信する機会が増えたことで意欲が増し、主体的に取り組む姿が見られる。これからも活動について発信する中で他の関係機関との結びつきも期待している。

海の公園にてアマモや生き物の観察



アマモの花枝を発見



アマモとアサリはどちらが水をきれいにするか
クラスで実験





金沢八景-アマモ再生会議のスタッフの出前授業

教室に前にあるアマモ場の水を抜いて、栽培の準備

